

令和6年8月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館(青梅市駒木町 1-684 TEL0428-23-6859)

## 小曾木の八大龍王と雨乞い

小曾木地域で一番高いと言われている千ヶ村峠<sup>ちがむら</sup>の山頂(標高 266 m、丘頂幅約 9 m)に八大龍王<sup>はちだいいりゅうおう</sup>を祀った祠があります。八大龍王とは、慈雨<sup>じう</sup>に関する神様の総称です。龍神<sup>りゅうじん</sup>や水神<sup>すいじん</sup>として祀られ、祠は村人たちの祈願の場所でした。旱<sup>ひでり</sup>が続き農作物が育たず、人々が困窮<sup>こんきゆう</sup>する恐れがある年には、村人は総出で降雨を祈願する雨乞い(雨乞・雨請)の神事を行っていたことが、明治時代の「宿谷家日記」や「市川家日記」に記録されています。雨乞いには様々な方法がありますが、小曾木地域に多かったのは、下記の3つのパターンです。



写真－八大龍王の祠

- (1) 村人が山または神社に祈願する形…八大龍王への祈願
- (2) 大勢で千回・一万回の水垢離<sup>みずごり</sup>をとる形…千垢離・万垢離(神仏に祈願するとき、心願が通じるように念じて、大勢で何度も水を浴びること)
- (3) 特定の聖地(大山阿夫利神社等)から代参が水種<sup>せんごり</sup>をうけてきて川や田に注ぐ形  
…これを大山詣りといい、「宿谷家日記」によると、毎年八月上旬に、村の中から選ばれた代表者(代参)が伊勢原市の大山阿夫利神社へ参詣していました。2泊3日ほどの旅程であるため、参拝となると費用の工面が困難でした。そうしたことから、村内の生活共同体である庭場単位で、大山詣りを目的とした講(こう)を組織し、費用をみんなで積立て、くじ引きや順番制で大山に向かうといった仕組みがありました。これを大山講といいます。

明治15(1882)年の日記には、村内の田の水が干からびたため、即座に大山へ参詣したことが記録されています。村の鎮守(ここでは八大龍王)に祈って効果のないときに、村外の著名な雨の神に参詣するというのが一般的でした。

また、雨乞いは、共同飲食(日待)が伴うことも多く、雨乞いの甲斐あって雨が降ると、「オシメリショウガツ(お湿り正月)」や「雨降祝ひ休暇」といって、臨時の休日を設け日待をすることもありました。当時、雨乞いの成功率は100%だったと言われています。なぜならば、「雨が降るまで」様々な方法で雨乞いを試みたからです。下記、雨乞いの様子がわかる記録を、2つの日記から抜粋意識します。

「市川家日記」

万延二年六月廿一日 南小曾木村郷中雨乞祈有。

七月四日 朝より小雨ふり初る。今日南小曾木村郷中庭場限りの雨乞ふれ、三日の日にふれ有候事。日待有、又五日是しめりに付かぎやうとめ、正月にて日待有。

五日 富岡村、畑村上下共に大山江雨乞に登り候。出迎え者大勢出ける。御水、八ッ時に此所を通り、其時大雨ふりける。是より後度々しめりして作物よく成ける。

文久二年 六月に相成、天気続き大にあつし。尤土用は六月廿四日に入なり。

同十八日雨請に万こりを取、信心致し候。尤小布一庭場切也。

－万延2(1861)年6月21日 村人総出で雨乞いをした。

－7月4日 (生活共同体である)庭場ごとで雨乞いを行い、日待をした。その後湿りがあり、オシメリショウガツということで日待をした。

－5日 富岡村と上畑村・下畑村が共同で大山へ雨乞祈願のため登った。大山の霊験あらたかな水をもって帰りこの場所を通った時に 大雨が降った。

－文久2(1862)年 天気が続きとても暑いので、小布一庭場限定で雨請のために万垢離を行い、祈願した。

「宿谷家日記」

明治六年八月七日 高德寺ニ雨乞有之

雨乞者首尾能い多須

明治六年八月八日 荒田之者雨乞尔八大龍王江登る

－明治6(1873)年8月7日 高德寺に雨乞いがあり、首尾よく終わった。

－明治6(1873)年8月8日 荒田(※小曾木3丁目)の者が雨乞いのために八大龍王に登った。

「皇国地誌西多摩郡村誌南小曾木村誌」(明治13(1880)年調査)には、八大龍王について、次のように記されています。「八大龍王山 元標位置ノ地、字古武士二千八百七十八番、村民宿谷時三郎私有地ノ山林ナリ。山脈千ヶ村峠ヨリ連絡ス。頂松林ニテ緑葉鬱葱ト繁茂シ、八大龍王ノ禿祠アリ。年早スルトキハ村民攀登シテ降雨ヲ祈ルニ必應アリト云ヘリ。」

太平洋戦争の際、徴兵された青年の無事を祈願して立派に建替えられた小曾木の八大龍王の祠は、子孫の方々によって管理され現在も往時のまま保たれており、地元住民からは《はつだいいりゅう》と呼ばれ親しまれています。昭和の中頃には、元旦に参詣すると、「よく来てくれたね」と祠で待つ管理人さんからお小遣いをもらえたため、村の子供たちが挙って参詣したそうです。その名残なのか、いまでも初日の出や元旦に参詣する人が少なくありません。以前は小曾木4丁目の高德寺や中井神社の裏山から登ることができましたが、現在は、ちがむら球技場の脇道から登るコースが歩きやすくなっています。

(文責 儘田菜つ美)